

**第 19 回福島県障がい者技能競技大会**  
**「ワードプロセッサ 競技課題 1」**

◆長文入力（日本文、英文）作成競技（制限時間 35 分）

以下の指示に従い、日本文、英文それぞれ A4 縦 1 枚に収まるように別紙の文書を作成しなさい。また、フッターのページ番号は入力しなくていいこと。

なお、デスクトップの「ワード競技課題」フォルダ内に保存すること。また、保存するファイル名は「課題 1」とすること。

【設問 1】余白調整は「やや狭い」とし、1 行文字数は 46 字に設定し、行数は日本文、英文共に 40 行とすること

【設問 2】各ページの先頭のカッコ内に氏名をひらがなで入力すること

【設問 3】1 ページに「日本文課題」を、2 ページ目に「英文課題」を作成しなさい。文章は左揃えで作成しなさい。なおページの移行は、改ページ機能を使用して行うこと。

【設問 4】日本文課題の句読点、数字、スペースは共に全角とする。改行等その他の指示がないものについては、別紙通りとすること。

【設問 5】英文課題は、すべて半角入力で行い、改行等その他指示のないものについては、別紙通りとすること。なお、別紙の文章には「各単語」、「.」、「,」の後ろに半角スペースが入力されている。

【設問 6】日本文のフォントは「MS 明朝」、英文のフォントは「Century」に設定すること。

福島県 HP の以下のページより引用しております。

・福島県のマイバック推進の取組について：

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/330931.pdf>

氏名（ひらがな入力）

◆福島県のマイバック推進の取組について

福島県では、「循環型社会の形成に向けた廃棄物の減量化」、「地球温暖化対策（温室効果ガスの減）」、「環境に負担をかけないライフスタイルへの契機」の観点から、買い物の際におけるレジ袋削減とマイバッグ持参の推進を行っています。

今年度は、更なる取組の推進のため、日頃から御協力いただいている事業者の方々から、レジ袋削減やマイバッグ持参の推進に向けた取組についてお話を伺いました。県や国が実施している取組とともにお知らせします。

（１）県内の店舗におけるマイバック持参率について

福島県では、一定の協力店舗におけるレジ袋辞退率（マイバッグ持参率）を毎年調査しております。今年度の結果については、下記のとおりですので、お知らせします。

１．レジ袋辞退率（マイバック持参率） ８１．２％（平成３０年度６月実績値）

過去５年間をみると、８１％台前半～８２％台前半の間で推移しており、一定レベルで定着していることが伺えます。

２．削減の効果

- ・年間削減枚数（推計値）は、約１億３，３００万枚（平成２０年度対比）です。
  - ・ごみの削減量としては、約１，４００世帯が１年間に出すごみの量に相当します。
  - ・二酸化炭素排出量としては、約１，３７０世帯が１年間に排出する二酸化炭素の量に相当します。
- 以上のように、一人一人の小さな取組が大きな成果をもたらしています。

（２）新・福島エコ道の実践に取り組んでみよう！

福島県では、地球温暖化対策のため、家庭で実践できる「新・福島エコ道」を推奨しています。

新・福島エコ道とは、

- ①早寝・早起き・家族団らん（同じ部屋を利用）を心がけ、使わない部屋の明かりはこまめに消す。
  - ②テレビを見ない時は、主電源を切る。
  - ③エアコンのフィルターを月１回程度掃除する。
  - ④食器を洗うときは温度設定を低めにし、夏場はお湯の使用を控える。
  - ⑤冷蔵庫を開けている時間を短くし、物を詰め込みすぎない。
  - ⑥水道やシャワーはこまめに止める。
  - ⑦室温を夏は２８℃、冬は２０℃を目安にし、冷暖房は必要なときだけつける。
  - ⑧車を運転するときは、エコドライブを実践する。ふんわりアクセル「ｅスタート」、加減速の少ない運転、早めのアクセルオフ、アイドリングストップなど
  - ⑨物を大切に使いゴミを減らす、リデュースや繰り返し使う、リユース、資源として再利用するリサイクルといった３Ｒ（スリーアール）を心がける。
  - ⑩お買い物をする時は、環境のことを考えて商品を選ぶ。地元の旬の食材 輸送エネルギーが少ない、エコマーク等がついた商品など一人一人が努力すれば、大きな力になります。
- みんなで挑戦することで、福島環境・未来を輝かせましょう！

氏名（ひらがな入力）

Ministry of the Environment "Plastic Smart" campaign!

The “Plastic Smart” campaign is being conducted by the Ministry of the Environment.

#### 1. Campaign purpose

To solve the global marine plastic problem, Wide range of individuals, local governments, NGOs, companies, research institutions, etc. It is necessary for the main body to work together in cooperation is.

Therefore, in this campaign, we will recruit and consolidate the efforts of a wide range of entities, thoroughly eliminate evacuation of litter, and conduct nationwide “smart ways to interact with plastics,” such as reducing unnecessary one-way plastic emissions and thoroughly separating and collecting waste. We will promote and disseminate examples of our efforts both in Japan and overseas.

#### 2. Campaign logo

The logo mark is a poster, flyer, pamphlet, and other materials created to publicize that all individuals, municipalities, companies, and organizations who agree with the campaign are implementing initiatives that contribute to solving marine plastic problems. It can be used free of charge for business cards, business cards and HP.

Logo mark data can be downloaded from the campaign site.